

一般質問

10名が登壇 市政を問う

雇用促進住宅入居者立退き問題について 市に調査捜査2課が捜査に入っている理由は みなと夏まつり寄附問題について H断層が動かない理由は



清水 澄夫

問 平成23年度までに雇用促進住宅を廃止することを国は閣議決定をし、一方的な都合で入居者を退去させようとしている。余りにも強引なやり方ではないか。121世帯の人が住んでいるが、廃止決定をされやむなく出ざるを得ない人達に市営住宅を世話する、また、住宅を買収し住宅対策の一環として雇用促進住宅を活用する考えはないか

答 平成16年以前の入居者は説明会や立退補償等の条件交渉を進めると聞いている。市は民間アパートなど充足しており、購入の意思がない事を伝えるてあります。

答 資料は提出したが、何の被疑事件についてかは、捜査上のことであり言えないとのことでした。

問 夏まつり寄附の中に、祭の趣旨から言って相応しくない人から受けているが、丁寧に返金すべきだが

答 受領金については、菊川警察署と相談して返金する方向で考えている。

問 H断層が動かない理由、地割れが起きた時は大丈夫か

答 今後プレート境界型地震の際にも動く事はないとつかがっています。

市立御前崎総合病院の 中期・長期計画について 灯台周辺の観光整備について



増田 雅伸

問 市立御前崎総合病院の今後の中期・長期計画は平成19年度から3カ年計画で基本理念、基本方針をもとに医療の資質向上、高齢化社会への対応、教育体制の強化、診療機能、人事計画、医療機器整備及び経営の効率化等の項目ごとに実施計画が策定されています。今回の総務省の公立病院改革プラン策定依頼にあわせて計画の見直しを考えています。今後経営分析及び近隣病院・診療所との連携をさらに推進し地域密着

問 灯台周辺の観光整備をどのように進めていくのか

答 実施計画では平成21年度に灯台敷地の用地買収、22年度に基本設計業務の実施を計画しています。現在、国が管理する灯台敷地内の建築物の撤去や財産処分できる土地の調整を第三管区海上保安本部と最終的な協議を進

問 市内の荒廃農地実態調査結果と今後の活用は

答 市内全域を対象にした実態調査は11月末までに完了し、その後は地権者の意向調査を実施して、解消計画の策定につなげていきます。

問 茶業の維持発展施策について

問 原油価格の高騰により生産コストを販売価格に転嫁できない第一産業は殊更厳しい局面に立たされている。今回は基幹産業でもある茶業の環境整備を取り上げてみたい。農道整備の所管が現在建設課になって掲げる農水課に戻すべきで

問 第一次総合計画、都市計画マスタープラン、国土利用計画、道路整備計画、地域まちづくり委員会等広範囲にわたる提言、提案が示されていますが、実施期間などは

問 御前崎市の行政改革の現状と今後の取り組みについて

答 平成18年3月に策定した御前崎市行政改革大綱及び行政改革行動計画に基づき、効率的な財政運営と質の高い行政サービスを提供するために推進している。

御前崎市の 基幹農業の再生について



西島 昌和

問 御前崎型農業振興ビジョンの策定は

答 策定への具体的道筋については、速効性の必要な対策、中長期的に対応すべき対策など農業関係者や団体とも連携し、農業振興ビジョン策定に向け、今後検討していきたいと考えます。

問 緊急農業支援策は

答 農業者が重油代金の支払いなどのためにJA農業者支援特別資金を借り入れた際に発生する利子について市が補給する緊急支援措置を予定します。



掛川市市民農園

各種調査事業の 推進状況について



大澤 満

問 第一次総合計画、都市計画マスタープラン、国土利用計画、道路整備計画、地域まちづくり委員会等広範囲にわたる提言、提案が示されていますが、実施期間などは

答 第一次総合計画は平成16年・17年度に策定、国土利用計画、都市計画マスタープランは平成18年・19年度に策定されました。この計画をもとに、各課により計画期間を3年として実施計画が策定され、毎年度口リリング方式により見直しして実施している。また、

問 市道長山線拡幅工事は

答 調査設計をしたところ、現況道路幅員内で整備し、平成21年度委託業務、

御前崎市の行政改革 行政改革について



曽根 紀久雄

問 人員削減、経費節減のための行政改革では、暗くしぼんでいくような感じがする。すべてのひとがよりよい御前崎市、市民のため、どうすればベストか、だめならどうすると前向きに取り組むようにするのも行政改革ではないか

答 行政改革は節約型ではなく、常に市民のための行政と思っている。タウンミーティング等で市民の皆さんの意見を聞きながら、適材適所の人員配置、しっかりとした職員の意識改革を実施していく。

問 市道女岩観音坂線の状況は

答 平成17年から19年度まで観音堂前約270m改良、臨港道路一号线入り口から約240mは本年用地調査し、平成21年、22年度に国庫補助金の地方道路交付金事業にて用地補償業務を計画し、23年度に改良舗装工事を計画している。



御前崎灯台